

第4次

志津まちづくり計画書【概要版】

令和8年(2026年)～令和12年(2030年)



1. 志津まちづくり計画書作成の背景と狙い

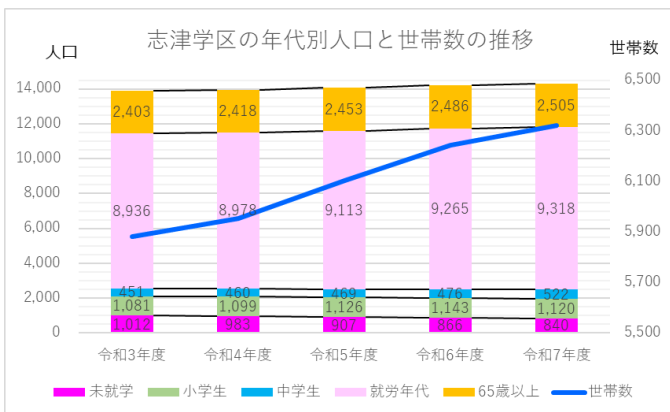
志津学区では、平成23年(2011年)住民主体のまちづくりを進めるため、学区内の団体や組織が集まり「志津まちづくり協議会」を設立しました。その後、平成26年(2014年)に「草津市協働のまちづくり条例」が施行され、本協議会は志津学区の代表団体として認定され、市民と行政の役割を明確にして互いに分担・協働しながら学区の自主的なまちづくりを推進することになりました。

第1次、2次計画では「ふれあい、支え合い、住み続けたいまち 志津」の基本理念を掲げ、第3次計画では、新しい志津まちづくりセンターが完成したことを受け、「ふれあい 支え合える 楽しいまち」の基本理念のもと、新センターを有効に活用したまちづくりを目指してきました。そして今回の第4次計画では「誰もが志津に暮らして良かったと感じるまち」を新たな基本理念として、これからの時代に沿った「志津まちづくり計画」(以下「本計画」)を策定しました。次の5年間も、さらなる志津学区のまちづくりの発展に向けて進めていきます。

2. 志津学区の概況(人口推移・地域の特徴)

草津市南東部に位置する志津学区は、ロクハ公園の森林や丘陵地が広がる自然豊かな地域です。市内では貴重な城址や歴史ある寺社も点在し、歴史と文化が受け継がれています。こうした環境を背景に、平成2年(1990年)頃から青地町や追分周辺で宅地開発が進み、子育て世代の転入が続いている影響で、志津小学校は1,000人を超える過大規模校となり、中学校でもマンモス校化が進んでいます。

一方、65歳以上の高齢者数も緩やかに増加していますが、草津市の推計では、志津学区の児童・生徒数は現在がピークで、今後は減少に転じる見込みとなっています。



3. これからの5年間のステップへの課題と計画への反映

5年間の活動を通じ多くの成果が得られた一方で、「運営の継続性」や「若年層・新住民の参画促進」「担い手の固定化・不足」などの共通課題も浮き彫りとなりました。本計画では、これまでに築いた成果を礎に「志津らしさ」をさらに深化させながら、地域のニーズや実情に即した事業を柔軟に展開することで、持続可能なまちづくりの実現を目指します。

また、これらの活動をひきつづきプロジェクト制で推進しながら、協議会・各種団体・町内会がより効果的かつ効率的に機能するための連携体制の構築にも注力していきます。

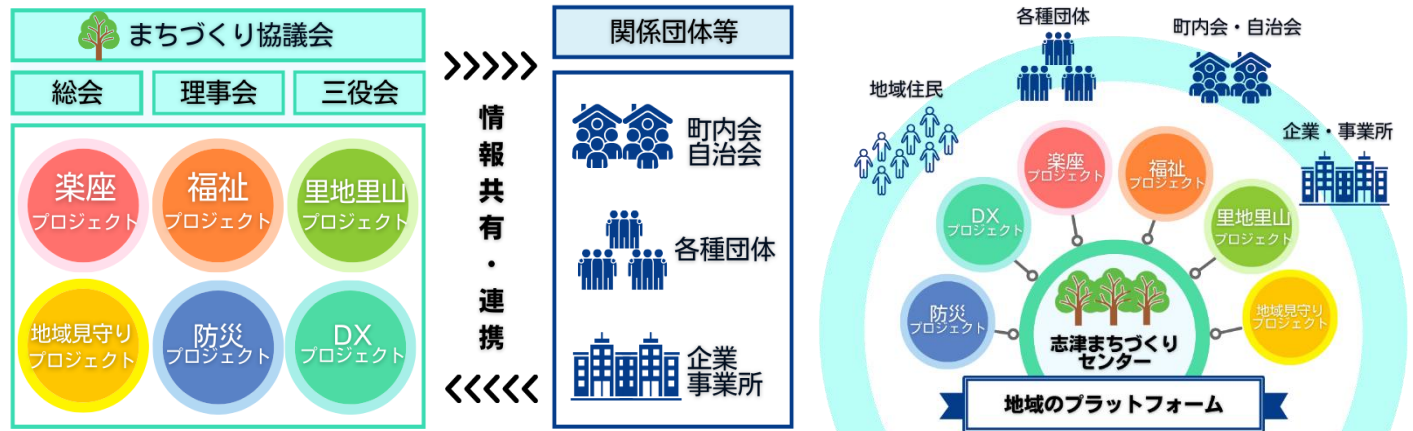
4. 第4次志津まちづくり計画の基本理念と基本方針



5. 事業の推進体制

志津学区には、さまざまな立場や思いをもつ人や団体が暮らし、活動しています。まちづくりは、そうした住民や町内会・自治会、企業、学校、各種団体などが出会い、思いを共有し、共に考えることから始まります。

本協議会は、これらの人や組織をつなぐ「地域のプラットフォーム」として、交流と対話の場を提供します。防災、福祉、見守り、環境、にぎわいづくりなど、分野ごとの活動を結び付け、それぞれの強みを活かしながら、地域全体で課題に取り組む基盤となります。本協議会は、何かを一方的に決める組織ではありません。まちの調整役として、人・想い・活動をつなぐ「つなぎ役」を担い、情報共有や連携を通じて地域の取り組みを支えます。



6. 進行管理

この計画は5年間にわたることや予算の調整などが伴うことから、年度ごとに事業計画及び予算措置を行い、本協議会の総会に諮った上で事業を実施するものとします。

事業を計画 (Plan) → 実行 (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action) のPDCA手法で行い、実施した事業については本協議会の役員会において評価を行い以後の事業展開に反映させていきます。今後の志津学区および草津市の状況を踏まえ、計画の実現性、可能性の変化に対応しながら適宜見直しを行います。



● 楽座プロジェクト ●

喜びや楽しさを実感できる交流機会を創るため、志津まちづくりセンターやロクハ公園など地域の拠点を活用し新たな活動が生まれる場を創ります。年齢や立場を超えて、誰もが自由な発想でいきいきと活躍できる関係づくりを重視します。交流の輪を広げるなかで次代を担う新しい人材の発掘やまちづくりに主体的に関わる仲間づくりを目指します。

重点施策

- 「楽しいまち」を創造する交流業の企画・運営
- 誰もが活躍できる関係づくりと人材発掘
- ロクハ公園・志津まちづくりセンターの活用



● 福祉プロジェクト ●

高齢化により孤立や認知症支援などの福祉課題が多様化していることから、地域で解決していく「地域共生型」を目指します。

障がい者関係施設を大切なパートナーとして位置づけ、地域参加を推進します。町内会の福祉課題にも寄り添うことに努めて、担い手の育成にも注力します。地域の福祉力を「当たり前の日常」として高めて、持続可能な支え合いの仕組みづくりを目指します。

重点施策

- 多世代が交流できる居場所づくりと孤立防止
- 町内会の福祉課題への伴走・後方支援
- 健幸(健康×幸せ)や認知症の支援に向けて
- 障がい者の地域参加と施設との連携推進
- 福祉の担い手育成と持続可能な体制整備
- 外出支援の促進



● 里地里山プロジェクト ●

志津に残る貴重な「里地里山」を持続的に活用することで、地域の自然環境の保全・循環型社会の構築・地域住民の参加・人材育成を同時に実現することを目的とします。

また、里地里山の価値を学区内外に発信し人々が自然と関わりながら、学び・働き・育つことができる場を創出します。長期的かつ地域に根ざした活動の基盤を整備することで、持続可能な地域づくりを推進します。

重点施策

- 里地里山環境づくりの推進
- 自然体験を通じて学ぶ場づくり
- 自然と人を育てる楽校(がっこう)づくり
- 官民連携による志津の杜づくりの推進



● 地域見守りプロジェクト ●

地域の子どもたちが安全・安心に通学できる環境づくりを最重要課題として、地域が一体となった見守り活動の充実と交通安全・防犯意識の向上を図ります。

あわせて、PTA解散後も継続可能な地域主体の見守り体制の確立を目指します。

重点施策

- 子どもを見守る体制の強化
- 交通安全意識の向上
- 持続可能な見守り組織の確立
- 防犯意識の向上



防災プロジェクト

「志津学区防災計画」に沿って取り組んでいくことを基本として、各町内会と連携して「防災対応能力の向上」に努めていきます。そのためは、自らの安全を守るための訓練・研修、防災リーダーの育成を推進していきます。また、発災時の迅速な情報収集や「地域防衛力*」「学区防災体制」の確立を目指します。

重点施策

- 志津学区防災計画の運営組織の基盤づくり
- 自己防衛力を高める啓発・研修活動の推進
- 防災リーダーの育成と参加促進



*地域防衛力とは、(自助)住民自身、(共助)地域住民、(公助)自衛消防・自治体支援をいう。

DXプロジェクト

第3次計画で整備した情報発信インフラ基盤を活用して、地域DX*を推進することで情報発信力と利便性を高め、住民のまちづくり参画を促進します。あわせて高齢者や誰もが利用しやすい情報環境づくりを目指します。

*Digital Transformation(DX)

重点施策

- 学区の情報インフラ整備の推進
- 情報格差の対策と学習支援
- デジタル活用による事務・イベント管理の効率化



8. 住民アンケートの実施

本計画の策定にあたり、志津学区に暮らす住民の方を対象にアンケートを実施しました。志津学区の魅力や日常生活での不安、本協議会の事業に対する認知などについて意見を伺い、地域課題や今後のまちづくりの方向性を検討するための基礎資料としました。アンケートの集計結果と自由記述で寄せられたご意見は、志津まちづくり協議会のホームページで公開しています。

9. 策定経過・その他

本計画は、令和7年6月から「まちづくり計画策定委員会」を設置し、全6回の協議を経て策定しました。第4次志津まちづくり計画書の冊子は、志津まちづくりセンターで閲覧できます。計画書の全文PDFは志津まちづくり協議会のホームページで公開しています。

アンケート結果はこちら



まちづくり計画書はこちら



志津まちづくり協議会
〒525-0041滋賀県草津市青地町 561 番地
(草津市立志津まちづくりセンター内)
電話/FAX 077-562-0047 メール
shizu@machikyouty.jp
<https://www.machikyouty.jp/shizu/>